4343-PS340-14

Log Management Utility

ユーザーズガイド

目次

本製品について iv
登録商標および商標 iv

1 はじめに

1.1 動作環境 1-1
1.2 対応 MFP について 1-2
1.3 機能の紹介 1-2
概要 1-2
取得できるログ情報 1-2

2 Log Management Utility のインストール

2.1 インストール方法 2-1
インストールの手順 2-1
2.2 インストールされる項目 2-3
2.3 アンインストール 2-4

3 Log Management Utility の起動

3.1 起動する 3-1
3.2 メイン画面 3-2
3.3 終了する 3-2

4 ログの確認

4.1 装置の登録 4-1
4.1.1 受信処理の対象に設定する 4-1
受信処理の対象に設定 4-1
4.2 装置からログを受信する 4-4
4.2.1 受信 4-4
4.2.2 指定装置から受信 4-7
4.2.3 指定装置からログを定期受信 4-8
4.3 ログを確認する 4-9
4.3.1 対象の履歴を選択する 4-9
4.3.2 ログの表示内容 4-10
4.4 ログの操作 4-14
4.4.1 並び替え 4-14

4.4.2 フィルター 4-15
フィルターを設定する 4-16
フィルターを解除する 4-18
4.4.3 ログの検索 4-18
検索する 4-19
4.4.4 詳細情報 4-22
4.4.5 ログの削除 4-23

5 Log Management Utility の各種設定

5.1 ファイルメニュー 5-1
5.1.1 ログファイルを開く／閉じる 5-1
5.1.2 エクスポートする 5-2
5.1.3 プロパティー 5-6
5.2 編集メニュー 5-7
5.2.1 コピー 5-7
5.2.2 検索 5-7
5.2.3 ログの削除 5-7
5.2.4 ログの詳細情報 5-7
5.3 表示メニュー 5-8
5.3.1 バーの表示／非表示 5-8
5.3.2 分割 5-8
5.3.3 レコードの表示（フィルター） 5-8
5.3.4 並べ替え 5-8
5.3.5 移動 5-9
5.3.6 表示項目の設定 5-9
5.3.7 全般的な設定 5-10
5.4 オプション 5-11
自動エクスポート： 5-12
定期受信： 5-14

6 エラーメッセージ一覧

本製品について

「Log Management Utility」は、Device Set-Up のプラグインとして、ネットワーク上の MFP（複合機）にアクセスし、装置内に蓄積されているログ（監査ログ、通信履歴などの装置上で行なわれた操作や処理の記録）を表示します。装置の使用状況の管理やトラブルの原因追跡に利用できます。

登録商標および商標

商標について

Microsoft®、Windows® は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel および Pentium は、アメリカ合衆国および他の国におけるインテルコーポレーションおよび子会社の登録商標または商標です。

その他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

画面について



ワンポイント
装置や設定および使用するコンピューターによって、本書に記載されている画面の内容と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。



ご注意
本書の一部またはすべての内容を、無断で複製したり、他言語に翻訳したり、引用したりすることは、固くお断りします。

本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがありますので、ご了承ください。

Copyright © 2007 KONICA MINOLTA, INC. All rights reserved.

1 はじめに

1.1 動作環境

Log Management Utility の動作環境は、以下のとおりです。

対応 OS	Windows Vista Enterprise（SP2 以降）* Windows Vista Business（SP2 以降）* Windows Vista Ultimate（SP2 以降）* Windows 7 Enterprise（SP1 以降）* Windows 7 Professional（SP1 以降）* Windows 7 Ultimate（SP1 以降）* Windows 8.1 Pro * Windows 8.1 Enterprise * Windows 10 Pro * Windows 10 Enterprise * Windows 10 Education * * 32 ビット (x86)/64 ビット (x64) 環境に対応。
CPU	使用 OS の推奨動作環境に準ずる
ハードディスク 空き容量	100 MB 以上 ただし、取得したログを保存する領域は別途必要。
メモリー容量	使用 OS の推奨動作環境に準ずる
ファイルシステム	NTFS ※FAT、FAT32 ファイルシステムは受信ログの保存場所に指定できません。
Web ブラウザー	Microsoft Internet Explorer 各 OS がサポートする最新バージョン
ライブラリー	Microsoft .NET Framework: 以下のバージョンが両方とも必要です。 ・.NET Framework 3.5（SP1 以降） ・.NET Framework 4.5 以降 * Windows 8.1、Windows 10 をお使いの場合は、以下の手順に従って、.NET Framework 3.5 を別途インストールしてください。 1. ［コントロールパネル］を開き、［プログラム］- ［プログラムと機能］- ［Windows の機能の有効化または無効化］をクリックします。 2.「.NET Framework 3.5（.NET 2.0 および 3.0 を含む）」にチェックを付け、[OK] をクリックします。 3. OS の指示に従ってインストールを完了します。
ネットワーク	TCP/IP、SNMP プロトコルの設定が正しく行われているコンピューター
ディスプレイ	800×600 ピクセル以上。 16bit カラー以上。

最新の動作環境については Readme を参照してください。

1.2 対応 MFP について

参考
お使いの MFP が Log Management Utility に対応しているかどうかは、Readme を参照してください。

1.3 機能の紹介

概要

Log Management Utility の主な機能は、以下のとおりです。

- 装置内のログを取得
  装置の監査ログやスキャン通信履歴、ファクス通信履歴を取得し、画面上に表示します。ログの内容で、その操作が行われた日時や、ユーザー、操作結果などを確認できます。また、複数の装置のログを取得することもできます。
- 取得したログの管理
  ログ表示は日時や番号で並べ替えたり、送信種別や相手先などの条件で検索して表示できるため、装置の使用状況やエラーの状況を確認できます。使用状況をまとめて管理するときに有効です。
- ログのエクスポート
  取得したログを別ファイル（ログファイル）としてエクスポートします。定期的にログを保存しておくことで継続して管理できます。

取得できるログ情報

Log Management Utility で取得できるログ情報は、以下のとおりです。

ワンポイント
表示される項目と表示幅は「表示項目設定」で変更できます。

監査ログ：

No.	項目	No.	項目
1	操作結果	12	個別ジョブ番号
2	結果コード	13	送信種別
3	操作	14	宛先
4	実施日時	15	ファイル名
5	IF 番号	16	自機取出しボックス番号
6	操作者情報	17	相手機取出しボックス番号
7	使用設定 / 状態	18	中継ボックス番号
8	ユーザー / 部門番号	19	TSI テーブル番号
9	操作ボックス番号	20	受信 FAX 番号
10	セキュリティー印刷 ID	21	ユーザー / 部門名
11	ユーザージョブ番号	22	外部サーバー情報

通信履歴（スキャン）ログ：

No.	項目
1	通信結果
2	結果コード
3	番号
4	相手先
5	時刻
6	送信種別
7	原稿枚数
8	備考

通信履歴（ファクス）ログ：

No.	項目
1	通信結果
2	結果コード
3	ログタイプ
4	番号
5	相手先
6	時刻
7	通信時間
8	原稿枚数
9	備考

2 Log Management Utility のインストール

2.1 インストール方法

Log Management Utility は以下の手順でインストールします。

ご注意

Administrator 権限のあるユーザー名で Windows にログオンしてインストールしてください。

起動しているアプリケーション（ウィルスチェックプログラムを含む）がある場合は、すべて終了しておきます。

Log Management Utility をインストールするには、Microsoft .NET Framework をインストールしておく必要があります。Microsoft .NET Framework のバージョンは、使用する OS によって異なります。詳しくは、p. 1-1 をごらんください。

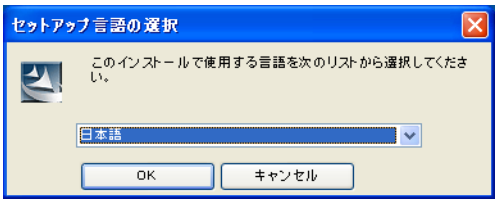
Device Set-Up がインストールされていない場合、Device Set-Up のインストーラーが起動するので、先に Device Set-Up をインストールしてください。

インストールの手順

1 インストールプログラム「Setup.exe」をダブルクリックします。

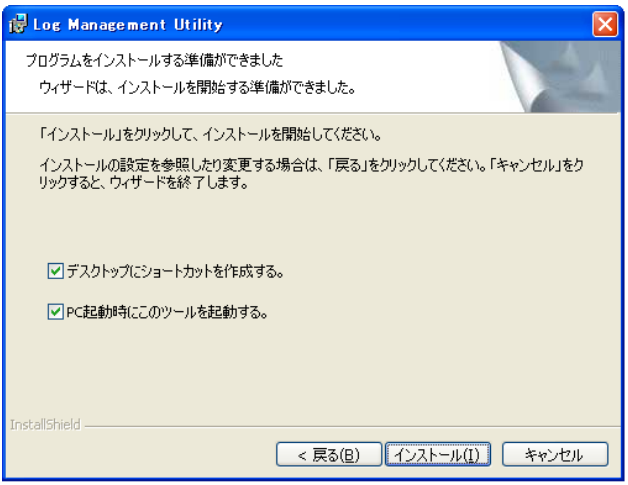
インストールプログラムが起動します。

2 言語を選択し、[OK] をクリックします。



3 画面の指示にしたがって、インストールを進めます。

ワンポイント
次の画面で「PC 起動時にこのツールを起動する」にチェックすると、コンピューター起動時に Log Management Utility も起動します。



2.2 インストールされる項目

Log Management Utility をインストールすると、スタートメニューおよびデスクトップに以下の項目が登録されます。

スタートメニューに登録される項目

- プログラム本体
- オンラインヘルプ
- Readme

デスクトップに登録される項目

- プログラムのショートカット

ワンポイント

スタートメニューの「Readme」はインストールしない設定にもできます。インストール途中のセットアップタイプで「カスタム」を選択し、インストール項目を選択してください。

デスクトップに登録されるプログラムのショートカットはインストール時に作成するかどうかを選択できます。

2.3 アンインストール

Log Management Utility をアンインストールするには、以下の方法があります。

- 「プログラムと機能」を使用する
- 「setup.exe」をもう一度実行する



ご注意

アンインストールを行うときは、Log Management Utility のプログラムを終了しておいてください。

Log Management Utility がインストールされている状態で、Device Set-Up をアンインストールすると Log Management Utility が使用できなくなりますので、ご注意ください。その場合、Log Management Utility のインストーラーで再インストールすれば、Device Set-Up もインストールされます。



ワンポイント

アンインストール時にはユーザー設定情報を削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

3 Log Management Utility の起動

3.1 起動する

Log Management Utility を起動するには、以下の方法があります。

- Windows のスタートメニューから起動する
  「スタート」メニューから「Log Management Utility」を選択します。
- デスクトップ上のショートカットアイコンで起動する
  デスクトップ上に作成される「Log Management Utility」アイコンをダブルクリックします。
- コンピューター起動時に自動的に起動する

起動するとメイン画面が表示され、タスクトレイに「Log Management Utility」アイコンが表示されます。

ワンポイント

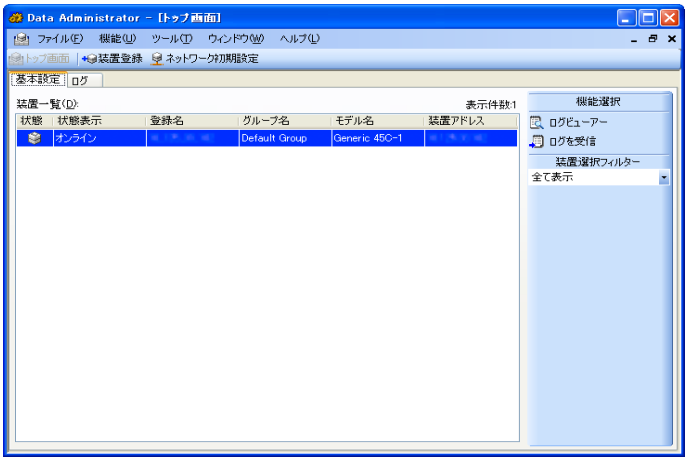
デスクトップ上の「Log Management Utility」アイコンはインストール時に作成するかどうかを選択できます。

コンピューター起動時に自動的に起動する設定は、インストール時またはオプション画面で設定できます。詳しくは「オプション」（p. 5-11）をごらんください。

初回起動時は「アプリケーション保護の設定」画面が表示されます。保護機能については、Device Set-Up ユーザーズガイドをごらんください。

3.2 メイン画面

Log Management Utility を起動するとメイン画面が表示されます。



ワンポイント
メイン画面の詳細については、Device Set-Up ユーザーズガイドをごらんください。

3.3 終了する

Log Management Utility を終了するには、以下の方法があります。

- メイン画面の［ファイル］メニューから［終了］を選択する
- メイン画面右上の［×］（閉じる）ボタンをクリックする
- コンピューターをシャットダウンまたはログオフする

4 ログの確認

4.1 装置の登録

Log Management Utility を使用するには、ネットワーク上の対応装置を検索して登録する必要があります。

対応装置の検索 / 登録方法として、以下の方法があります。

- ネットワーク上の装置を検索する方法
- IP アドレスを指定して検索する方法
- 機能アクセス制限ファイルから登録する方法

ワンポイント
対応装置の検索 / 登録方法については、Device Set-Up ユーザーズガイドをごらんください。

4.1.1 受信処理の対象に設定する

受信処理の対象に設定

→ ［ログ管理設定］は、ログ管理機能に対応した装置のみに設定できます。

1 Log Management Utility を起動します。

2 装置登録 をクリックします。

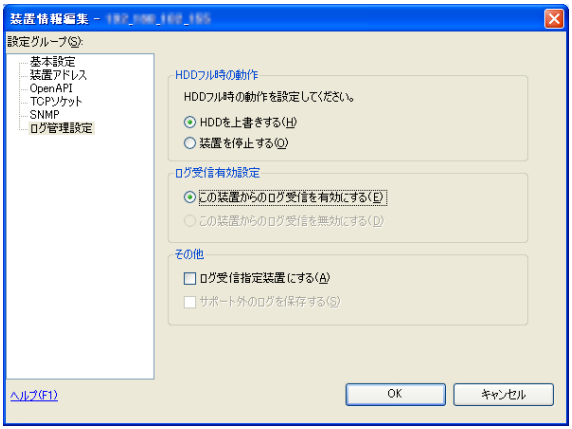
3 リストから、ログを受信したい装置を選択して、［編集］をクリックします。



4 設定グループで［ログ管理設定］を選択します。

- ログ管理機能に対応していない装置を選択した場合は［ログ管理設定］は表示されません。

5 [この装置からのログ受信を有効にする] を選択し、[OK] をクリックします。



- 機種によっては、[ログ受信有効設定] を無効にできない場合があります。
- 必要に応じて HDD フル時の動作を設定します。
- [指定装置からログを受信]または[指定装置からログを定期受信]を使用するには、[ログ受信指定装置にする] も選択します。
- [サポート外のログを保存する] は、一部の機種で選択可能です。監査や通信履歴以外のログを保存したい場合は、この項目を選択します。

6 [閉じる] をクリックします。

選択した装置が受信処理の対象として設定されます。

4.2 装置からログを受信する

ログは選択している装置のログのみを受信する「受信」と、ログ受信指定装置として登録されている装置すべてから受信する「指定装置から受信」があります。

ご注意

ログ受信中は、対象となる装置の電源を切らないでください。

ログの数によっては、ログ受信に時間がかかる場合があります。

ワンポイント

「オプション」の設定でログを定期的に自動受信することもできます。詳しくは、「オプション」（p. 5-11）をごらんください。

4.2.1 受信

1 Log Management Utility を起動します。

2 リストから目的の装置を選択します。

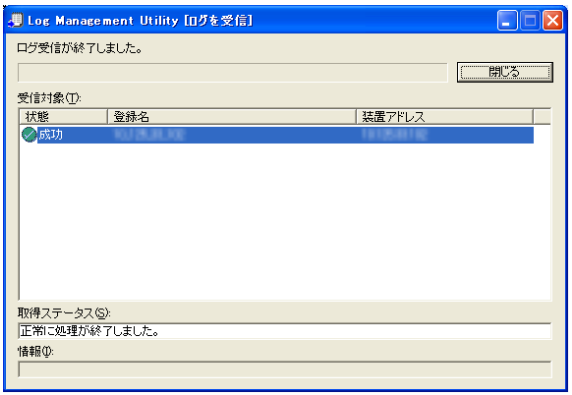
3 機能選択フィールドから［ログを受信］をクリックします。



4 ログの保存先を確認して［OK］をクリックします。



5 ログの受信を確認して［閉じる］をクリックします。

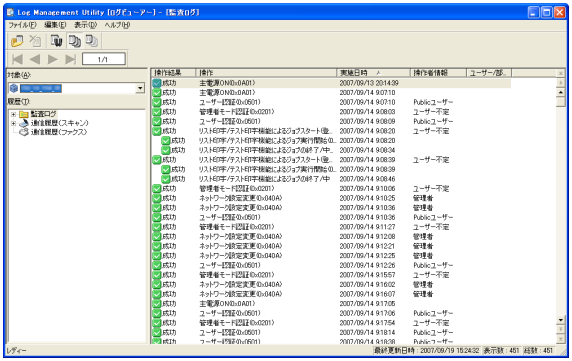


6 メイン画面の機能選択フィールドから［ログビューアー］をクリックします。

7 保存先を確認して［OK］をクリックします。



8 ログビューアーでログを確認します。



9 画面右上の［X］をクリックして、ログビューアーを閉じます。

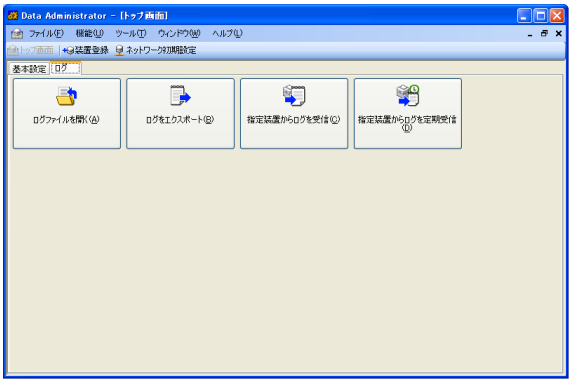
4.2.2 指定装置から受信

「ログ受信指定装置」に設定している複数の装置から一括してログを受信します。

1 Log Management Utility を起動します。

メイン画面が表示されます。

2 [ログ] タブをクリックし、[指定装置からログを受信] を選択します。



- 機能メニューから [ログ] - [指定装置からログを受信] を選択しても実行できます。

3 ログを確認します。

...

ワンポイント

登録されている装置であっても、ログ受信指定装置として設定されていない装置からは一括でログを受信しません。ログ受信指定装置の設定方法については、p. 4-1 をごらんください。

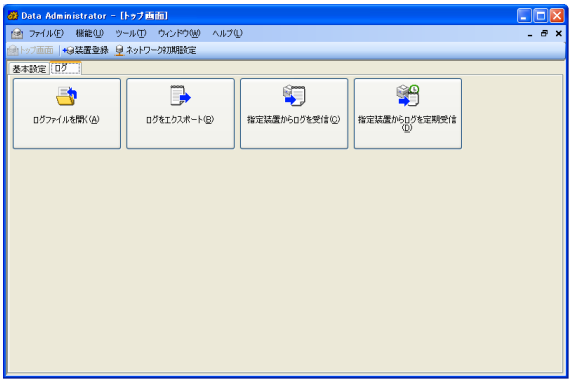
4.2.3 指定装置からログを定期受信

Log Management Utility を起動している間、「ログ受信指定装置」に設定している全ての装置から定期的に一括してログを受信します。

1 Log Management Utility を起動します。

メイン画面が表示されます。

2 ［ログ］タブをクリックし、［指定装置からログを定期受信］を選択します。



- 機能メニューから［ログ］-［指定装置からログを定期受信］を選択しても実行できます。

ワンポイント

定期受信の間隔については、p. 5-14 をごらんください。

Windows ログオン時に定期受信を起動することができます。くわしくは、p. 5-14 をごらんください。

4.3 ログを確認する

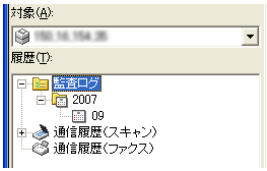
受信したログは「監査ログ」、「スキャン通信履歴」、「ファクス通信履歴」が年や月ごとに表示されます。対象の履歴は選択ビューで指定できます。

4.3.1 対象の履歴を選択する

1 Log Management Utility を起動し、必要に応じてログを受信します。

2 メイン画面の機能選択フィールドから［ログビューアー］をクリックしてログビューアーを起動します。

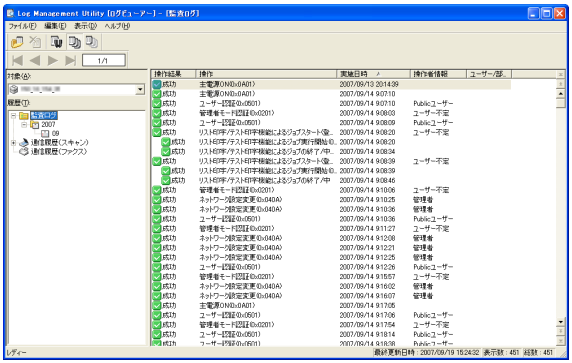
3 左側の選択ビューで「対象」と「履歴」を選択します。



- 対象：対象となる装置やログファイルを選択します。
  装置はプリンターアイコン、ログファイルはテキストアイコンで表示されます。
- 履歴：ログの種類を選択します。各ログ種類はさらに「年」、「月」ごとに選択することもできます。

選択した「対象」と「履歴」に対応するログのレコード一覧が右側のログ情報表示ビューに表示されます。

ログの種類を選択しているときは、その種類の全レコードが表示されます。「年」、「月」を選択しているときは選択している期間のレコードが表示されます。



4.3.2 ログの表示内容

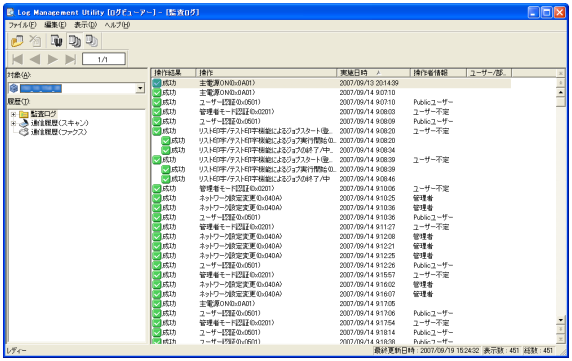
表示されたログの各レコードでは、実行結果や実行された日時、使用者などが確認できます。表示する項目はログの種類により異なります。

ワンポイント

各ログの種類で表示される項目と表示幅は「表示項目設定」で変更できます。詳しくは、「表示項目の設定」（p. 5-9）をごらんください。

監査ログ：

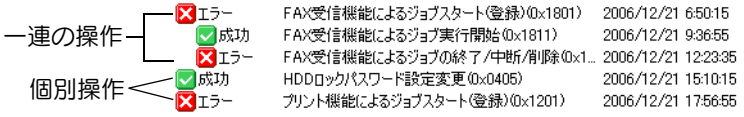
装置で操作されたログを表示します。操作の結果や操作内容、使用者などが確認できます。



...

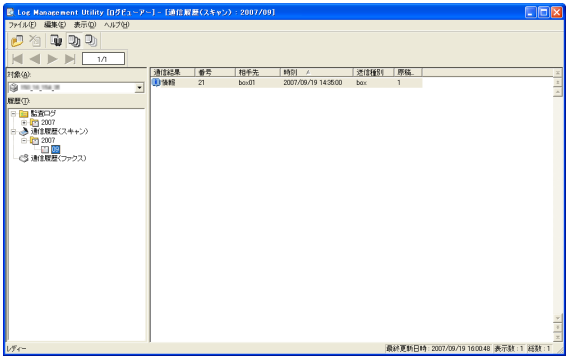
ワンポイント

操作結果の前に余白があり、階層構造になっているレコードは、1つ上のレコードと関連した操作であることを示しています。この場合、ユーザージョブ番号が同じで各操作を個別ジョブ番号で区別しています。



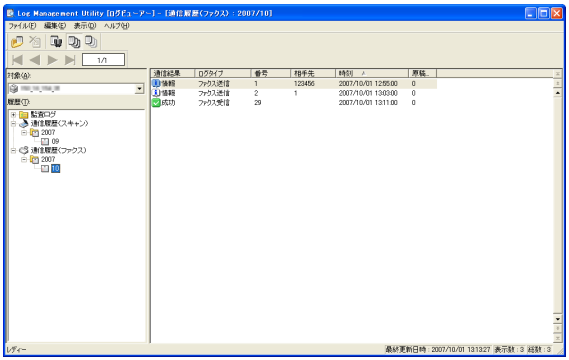
通信履歴（スキャン）：

スキャンジョブのログを表示します。通信結果やジョブ番号、相手先などが確認できます。



通信履歴（ファクス）：

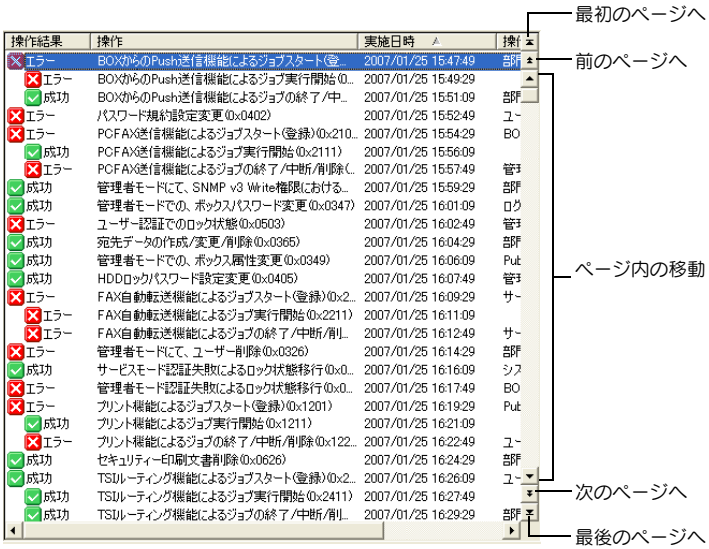
ファクスジョブのログを表示します。通信結果やジョブ番号、相手先などが確認できます。



結果の状態は、以下の内容を示しています。

履歴の種類	項目	ステータス	状態
監査ログ	操作結果	成功	操作が成功した
		エラー	操作エラーになった
通信履歴（スキャン） 通信履歴（ファクス）	通信結果	成功	通信が成功した
		エラー	エラーになった
		情報	中止された

ページ内のレコードの確認およびページの移動は垂直スクロールバーで操作できます。



ワンポイント

ページの移動は、ページバーのアイコンや「表示」メニューの「移動」コマンドでも操作できます。

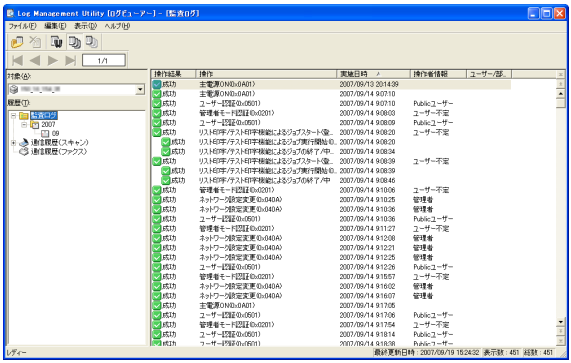
4.4 ログの操作

ログのレコードは並べ替え、条件による抽出、検索、削除ができます。

4.4.1 並び替え

レコードは、項目名をクリックすることで降順または昇順に並べ替えられます。

▲マークは現在の表示が昇順であることを示し、クリックすると降順になります。



並べ替えを指定できる項目は、ログの種類により以下のようになります。

履歴の種類	並び替え対象項目
監査ログ	・ 実施日時 ・ ユーザージョブ番号 ・ 個別ジョブ番号
通信履歴（スキャン）	・ 時刻
通信履歴（ファクス）	・ 時刻

ご注意

レコードの数によっては、処理に時間がかかる場合があります。

ワンポイント

ログが複数ページになっている場合、全ページの情報を並べ替えます。各ログの種類で表示される項目と表示幅は「表示項目設定」で変更できます。詳しくは、「表示項目の設定」（p. 5-9）をごらんください。

4.4.2 フィルター

条件に一致したレコードのみ抽出して表示できます。

指定できる条件はログ種類により、以下のとおりです。

項目	内容	監査ログ	通信履歴（スキャン）	通信履歴（ファクス）
開始	対象とする開始年月日を指定します。	○	○	○
終了	対象とする終了年月日を指定します。	○	○	○
操作結果	対象とする操作結果を指定します。	○		
通信結果	対象とする通信結果を指定します。		○	○
操作 *	対象とする操作を指定します。 操作が指定されていない場合は「条件なし」となります。	○		
操作者情報	対象とする操作者情報を指定します。	○		
送信種別	対象とする送信種別を指定します。	○	○	
ログタイプ	対象とするログタイプを指定します。			○
宛先 *	対象とする宛先を指定します。	○		
相手先 *	対象とする相手先を指定します。		○	○
ファイル名 *	対象とするファイル名を指定します。	○		
ユーザー / 部門名 *	対象とするユーザー名、または部門名を指定します。	○		
外部サーバー情報 *	対象とする外部サーバー情報を指定します。	○		
備考 *	対象とする備考欄の文字を指定します。		○	○
大文字と小文字を区別する	入力文字列に対し大文字と小文字を区別するかどうかを指定します。	○	○	○

* 文字を入力する項目の場合、入力した文字を含むレコードが条件に一致するレコードとして表示されます（部分一致）。

フィルターを設定する

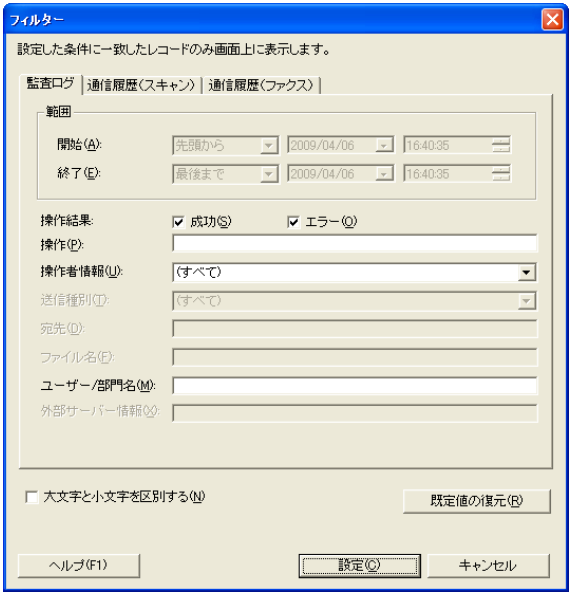
1 ログビューアーを開いて、ツールバーの をクリックします。

- ［表示］メニューから［フィルター］を選択しても実行できます。

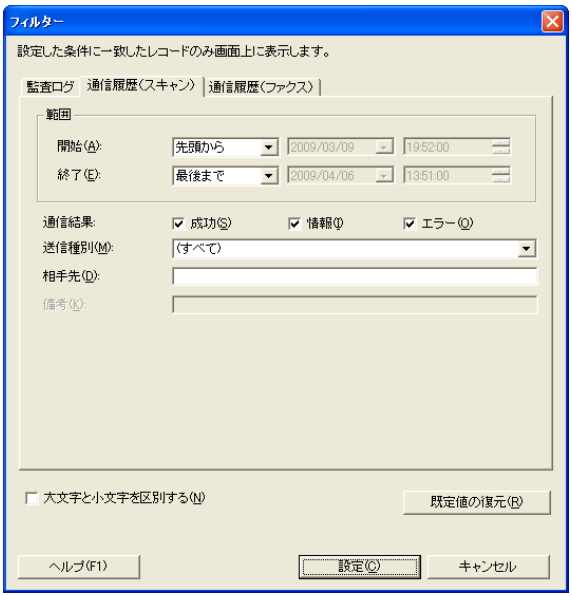
2 条件を設定し、［設定］をクリックします。

- 条件を設定する画面はログの種類によって異なります。

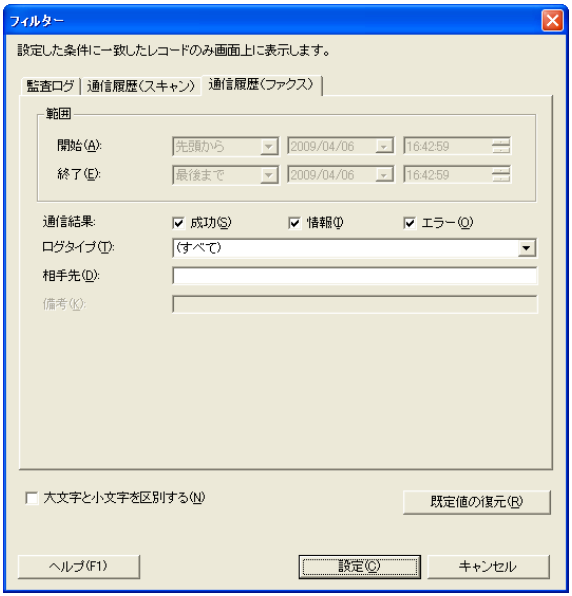
監査ログ：



通信履歴（スキャン）：



通信履歴（ファクス）：



条件に一致したレコードのみ表示されます。

ご注意
レコードの数によっては、処理に時間がかかる場合があります。

ワンポイント
文字を入力する項目の場合、文字にワイルドカード（* や ?）は使用できません。

条件を設定する画面で［既定値の復元］をクリックすると、設定を初期値にします。

フィルターを解除する

フィルターを解除する場合は、ツールバーの をクリックするか、［表示］メニューから［全てのレコード］を選択します。

4.4.3 ログの検索

条件に一致したレコードを検索できます。

指定できる条件はログ種類により、以下のとおりです。

項目	内容	監査ログ	通信履歴（スキャン）	通信履歴（ファクス）
操作結果 / 通信結果	対象とする操作結果を指定します。	○	○	○
操作 *	対象とする操作を指定します。 操作が指定されていない場合は「条件なし」となります。	○		
操作者情報	対象とする操作者情報を指定します。	○		
送信種別	対象とする送信種別を指定します。	○	○	
ログタイプ	対象とするログタイプを指定します。			○
宛先 *	対象とする宛先を指定します。	○		
相手先 *	対象とする相手先を指定します。		○	○
ファイル名 *	対象とするファイル名を指定します。	○		
ユーザー / 部門名 *	対象とするユーザー名、または部門名を指定します。	○		

項目	内容	監査ログ	通信履歴（スキャン）	通信履歴（ファクス）
外部サーバー情報 *	対象とする外部サーバー情報を指定します。	○		
備考 *	対象とする備考欄の文字を指定します。		○	○
大文字と小文字を区別する	入力文字列に対し大文字と小文字を区別するかどうかを指定します。	○	○	○
検索の方向	検索する方向を指定します。	○	○	○

* 文字を入力する項目の場合、入力した文字を含むレコードが条件に一致するレコードとして表示されます（部分一致）。

検索する

1 ログビューアーを開いて、対象となるログの種類や期間を左側の選択ビューで選択します。

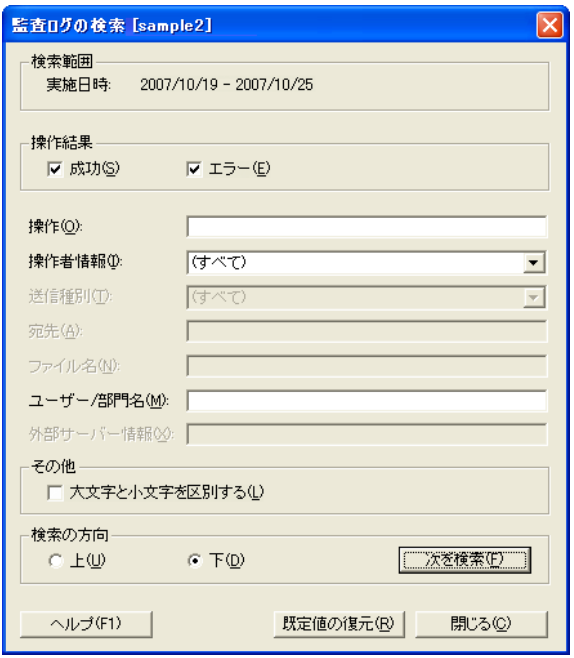
2 ツールバーの  をクリックします。

- ［編集］メニューから［検索］を選択しても実行できます。

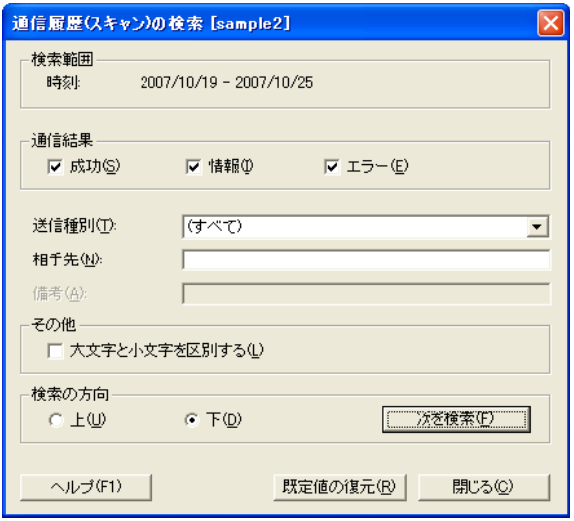
3 条件を設定し、［次を検索］をクリックします。

- 条件を設定する画面はログの種類によって異なります。

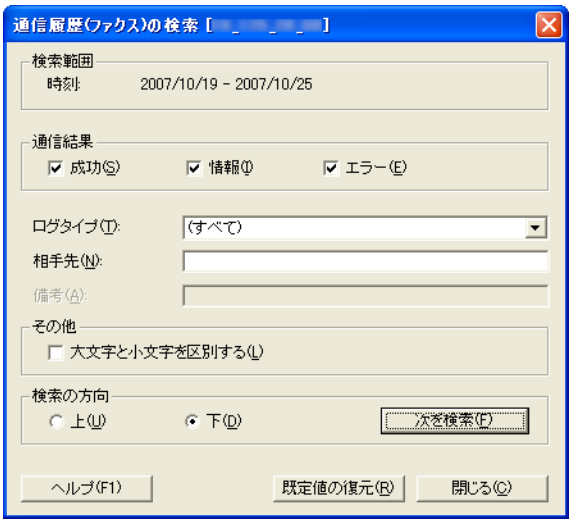
監査ログ：



通信履歴（スキャン）：



通信履歴（ファクス）：



条件に一致したレコードを順に検索し、検索したレコードが選択されます。

条件設定画面は表示されたままになり、続けて次のレコードを検索できます。

4 検索を終了するときは［閉じる］をクリックします。

ご注意

レコードの数によっては、処理に時間がかかる場合があります。

ワンポイント

検索する対象は、［選択ビュー］で指定されているログの種類や期間になります。対象を変更する場合は、選択ビューで選択しなおしてください。

文字を入力する項目の場合、文字にワイルドカード（* や ?）は使用できません。

条件を設定する画面で［既定値の復元］をクリックすると、設定を初期値にします。

4.4.4 詳細情報

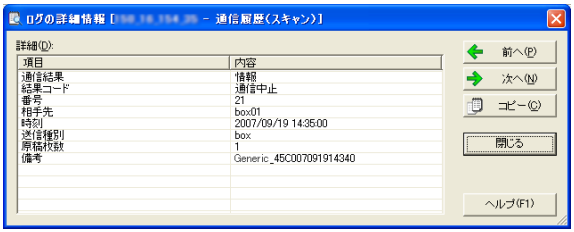
選択したレコードの詳細情報を確認できます。

確認したいレコードをダブルクリックするか、レコードを選択して「編集」メニューから「ログの詳細情報」を選択します。

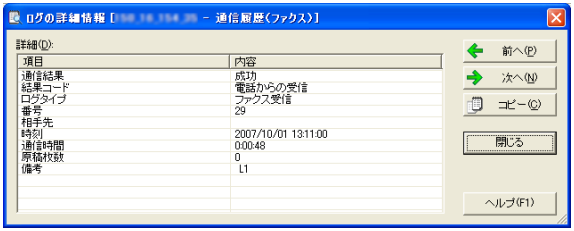
監査ログ：



通信履歴（スキャン）：



通信履歴（ファクス）：



ワンポイント

［前へ］［次へ］で表示しているレコードを切換えます。

［コピー］をクリックすると内容のテキストをクリップボードにコピーできます。

4.4.5 ログの削除

不要なログのレコードを削除できます。

ご注意
削除したレコードは元に戻すことができません。

ワンポイント
ログファイル内のレコードを削除することはできません。

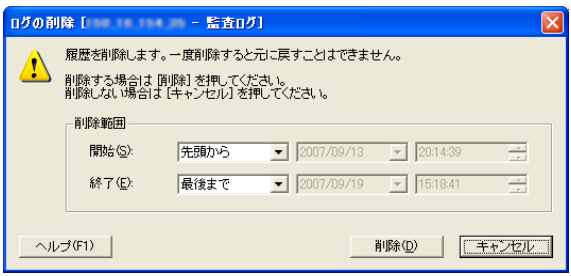
選択したレコードのみを削除することはできません。範囲で選択してください。

階層表示になっているレコードで、上のレコードが削除範囲に該当している場合は、階層に含まれる全てのレコードが削除されます。

1 ログビューアーを開いて、対象となるログの種類や期間を左側の選択ビューで選択します。

2 ［編集］メニューから［ログの削除］を選択します。

3 削除するレコードの範囲を設定し、［削除］をクリックします。



4 ［はい］をクリックします。



指定した範囲のログが削除されます。

5 Log Management Utility の各種設定

5.1 ファイルメニュー

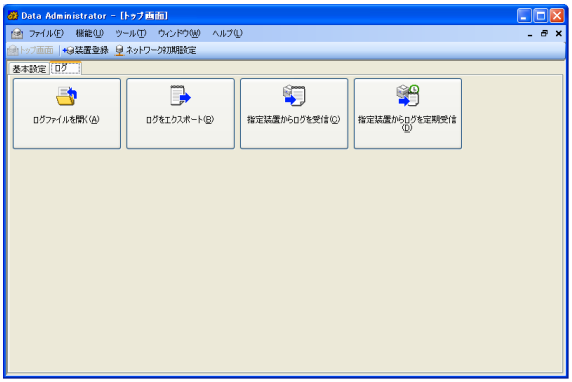
5.1.1 ログファイルを開く／閉じる

エクスポートしたファイルを開いてログのレコードを確認できます。

1 Log Management Utility を起動してメイン画面を表示します。

- メイン画面の表示については、p. 3-1 をごらんください。

2 ［ログ］タブをクリックし、［ログファイルを開く］を選択します。



- ［機能］メニューから［ログ］-［ログファイルを開く］を選択しても実行できます。

3 目的のログファイルを選択し、[開く] をクリックします。

ログファイルが開きます。

開いたログファイルのレコードは、装置から受信したログ同様、並べ替えやフィルター機能を利用できます。

ワンポイント

ログファイルは同時に 10 ファイルまで開くことができます。

開いたログファイルを閉じる場合は、ツールバーの [ログファイルを閉じる] アイコンをクリックするか、[ファイル] メニューから [ログファイルを閉じる] を選択します。「ログファイルを閉じる」が有効になっていない場合は、左側の選択ビューで [対象] がログファイルになっていることを確認してください。

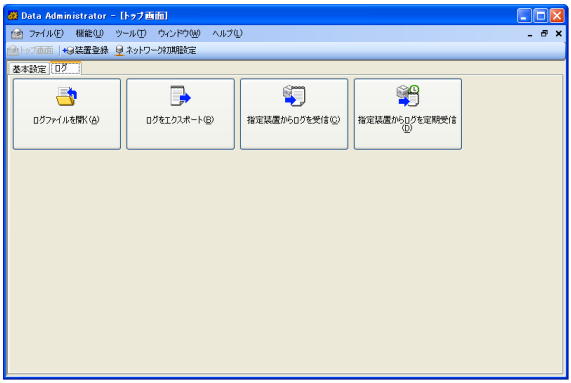
5.1.2 エクスポートする

装置から受信したログをログファイルとして保存できます。

1 Log Management Utility を起動してメイン画面を表示します。

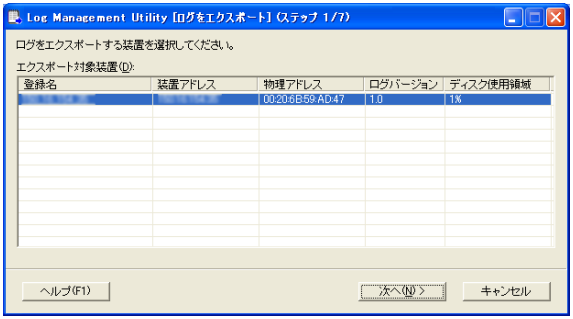
- メイン画面の表示については、p. 3-1 をごらんください。

2 [ログ] タブをクリックし、[ログをエクスポート] を選択します。



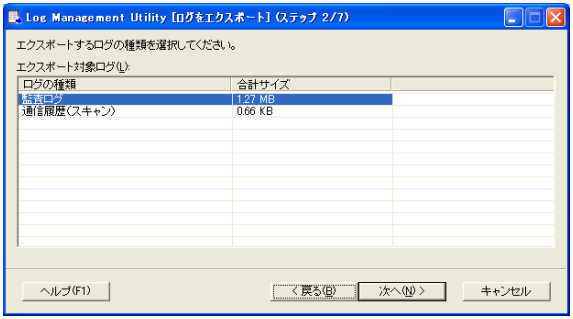
- [機能] メニューから [ログ] - [ログをエクスポート] を選択しても実行できます。

3 エクスポートする対象の装置を選択し、［次へ］をクリックします。



- 選択できる装置は 1 つのみです。

4 ログの種類を選択し、［次へ］をクリックします。

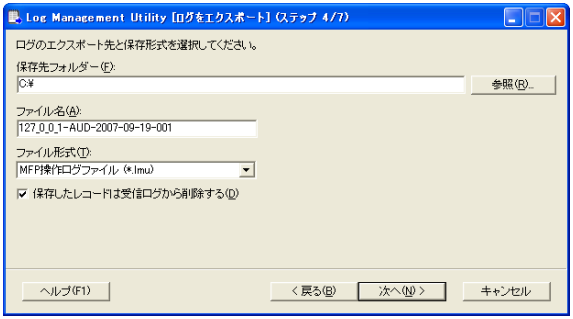


- 選択できるログは 1 つのみです。
- レコードのないログは表示されません。

5 ログの範囲を指定し、［次へ］をクリックします。



6 保存先フォルダーとファイル名、ファイル形式を指定します。



- 「保存したレコードは受信ログから削除する」をチェックすると、保存後に受信ログから削除されます。

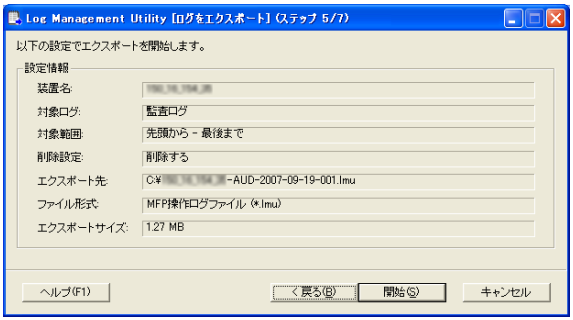
ご注意

ファイル形式の「MFP 操作ログファイル」は Log Management Utility で表示できるファイル形式です。「MFP 操作ログファイル」以外の形式で保存した場合、Log Management Utility で開くことができません。

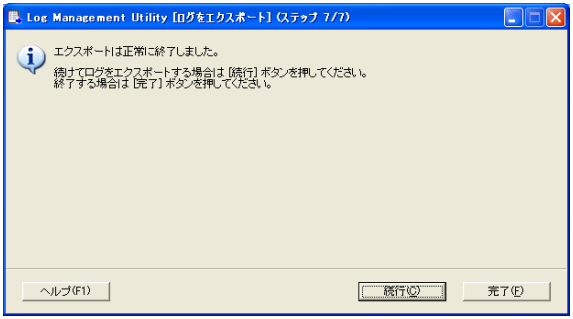
フィルター機能により表示件数が抽出されている状態で保存した場合、「MFP 操作ログファイル」形式では非表示のレコードも含め全件表示できますが、他のファイル形式では表示されたレコードのみ保存します。

7 [次へ] をクリックします。

8 内容を確認して [開始] をクリックします。



9 ［完了］をクリックします。



- 続けて他のログを保存する場合は［続行］をクリックし、手順 3 からの操作を繰り返します。

ワンポイント
保存時のレコードは「操作実施日時」や「登録時間」順で並べ替えた状態で保存されます。

5.1.3 プロパティー

左側の選択ビューで「対象」となっている装置やログファイルの詳細情報を表示できます。

1 ログビューアーを開いて、対象となる装置やログファイルを左側の選択ビューで選択します。

2 ［ファイル］メニューから［プロパティー］を選択します。

プロパティーが表示されます。



5.2 編集メニュー

5.2.1 コピー

選択しているレコードの内容をクリップボードにコピーできます。

1 目的のレコードを選択します。

2 「編集」メニューから「コピー」を選択します。

表示されているレコードの内容がテキストとしてクリップボードにコピーされます。他のアプリケーションに貼り付けて利用できます。

コピーされるテキストの例（監査ログ）：

操作結果：	成功
操作：	管理者モードにて、部門属性変更（0x0339）
実施日時：	2006/12/12 5:58:08
操作者情報：	部門：2
ユーザー / 部門名：	

5.2.2 検索

「編集」メニューから「検索」を選択すると、条件に一致したレコードを検索できます。詳しくは、「ログの検索」（p. 4-18）をごらんください。

5.2.3 ログの削除

「編集」メニューから「ログの削除」を選択すると、不要なログのレコードを削除できます。詳しくは、「ログの削除」（p. 4-23）をごらんください。

5.2.4 ログの詳細情報

「編集」メニューから「ログの詳細情報」を選択すると、選択したレコードの詳細情報を確認できます。詳しくは、「詳細情報」（p. 4-22）をごらんください。

5.3 表示メニュー

5.3.1 バーの表示／非表示

「表示」メニューでは、「ツールバー」「ステータスバー」「ページバー」の表示と非表示を選択できます。



5.3.2 分割

左側の選択ビューと右側のログ情報表示ビューの表示割合を変更します。

「表示」メニューから「分割」を選択すると、左右のビューの境界線が移動できるようになります。マウスで移動し、クリックで確定します。

ワンポイント
左右のビューの境界線はドラッグでも移動できます。

5.3.3 レコードの表示（フィルター）

「表示」メニューから「フィルター」を選択すると、条件に一致したレコードのみ抽出して表示できます。詳しくは、「フィルター」（p. 4-15）をごらんください。

「表示」メニューから「全てのレコード」を選択すると、フィルターを解除して全レコードを表示します。

5.3.4 並べ替え

「表示」メニューから「並び替え」を選択し、表示されるメニューから項目を選択すると、その項目が昇順になるように並べ替えられます。もう一度項目を選択すると降順になります。

並べ替えはログ情報表示ビューの項目名でも操作できます。詳しくは、「並び替え」（p. 4-14）をごらんください。

5.3.5 移動

「表示」メニューから「移動」を選択し、表示されるメニューから移動先を選択すると、カーソル（現在選択している対象）を移動できます。

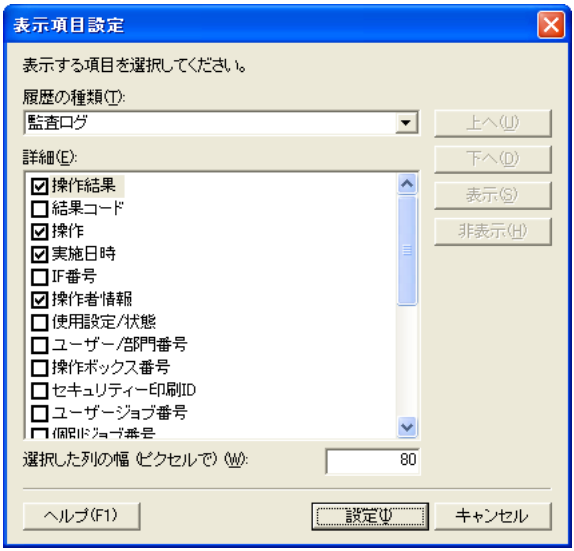
ページの移動は、垂直スクロールバーやページバーのアイコンでも操作できます。

5.3.6 表示項目の設定

各ログの種類で表示される項目と表示幅を変更できます。

1 「表示」メニューから「表示項目設定」を選択します。

2 項目を設定する「履歴の種類」を選択します。



3 詳細のリストから項目のチェックマークで表示／非表示を設定します。

- チェックをすると表示される項目になります。
- 画面右側の［表示］／［非表示］でも設定を変更できます。

4 必要に応じて他の条件を設定します。

- 選択した列の幅（ピクセルで）：
  表示幅を数値で指定します。0 ～ 999 で指定できます。
- ［上へ］：
  項目の表示順を上へ移動します。
- ［下へ］：
  項目の表示順を下へ移動します。

ワンポイント
監査ログの「操作結果」と通信履歴の「通信結果」は表示順を変更できません。

5 ［設定］をクリックします。

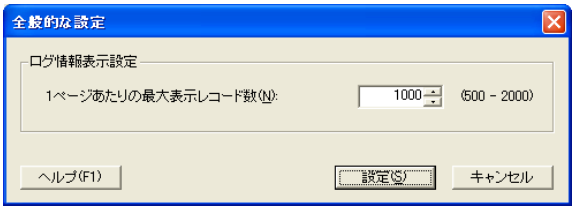
表示項目が変更されます。

5.3.7 全般的な設定

1 ページに表示する最大レコード数を設定できます。

1 「表示」メニューから「全般的な設定」を選択します。

2 1 ページに表示する最大レコード数を指定します。



3 ［設定］をクリックします。

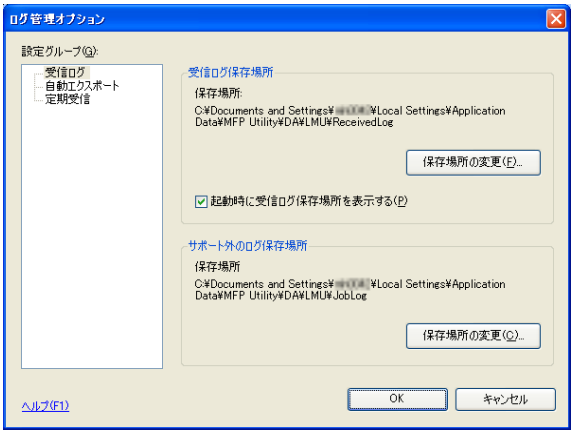
表示設定が変更されます。

5.4 オプション

［ツール］メニューから［オプション］-［ログ管理オプション］を選択すると、Log Management Utility の受信ログや動作の条件を設定できます。

ログ管理オプション画面には、設定グループリストとして、受信ログ、自動エクスポート、定期受信があります。

受信ログ：

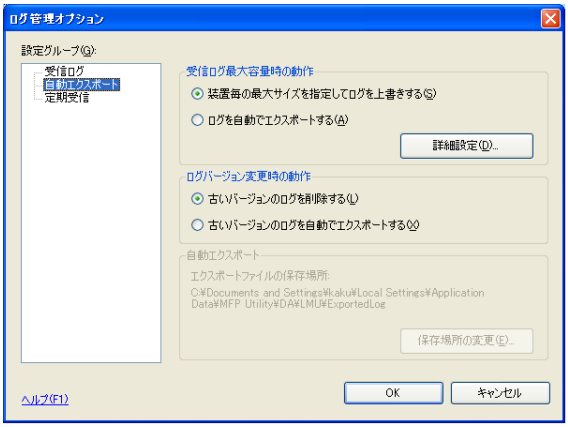


設定項目		説明
受信ログ保存場所	保存場所の変更	装置から取得したログを保存する場所を指定します。
	起動時に受信ログ保存場所を表示する	起動時に受信ログ保存場所を表示するかどうかを設定します。
サポート外のログ保存場所	保存場所の変更	ログ管理設定で［サポート外のログを保存する］を設定した場合、監査や通信履歴以外のログを保存する場所を指定します。

ご注意

受信ログが存在する場合は受信ログの保存場所を変更できません。保存場所を変更する前に、エクスポートする、削除するなどで、ログがない状態にしてください。

自動エクスポート：



設定項目		説明
受信ログ最大容量時の動作		受信ログが最大容量になったときの動作を設定します。 「装置毎の最大サイズを指定してログを上書きする」： 受信ログが最大容量になったときにログを上書きします。この設定で［詳細設定］をクリックすると最大ディスク領域を設定できます。 「ログを自動でエクスポートする」： 受信ログが最大容量になったときにログを自動でエクスポートします。この設定で［詳細設定］をクリックすると自動でエクスポートするログの割合を設定できます。 自動エクスポート先フォルダーは、画面下部の「自動エクスポート」で設定できます。
ログバージョン変更時の動作		登録装置のログバージョンが変更された場合の受信ログの扱いを指定します。 「古いバージョンのログを削除する」： 保存している古いバージョンの受信ログを削除します。 「古いバージョンのログを自動でエクスポートする」： 保存している古いバージョンの受信ログを自動でエクスポートします。
自動エクスポート	保存場所の変更	自動でエクスポートしたファイルを保存する場所を指定します。

ご注意

登録装置のログバージョンが変更された場合、Log Management Utility は以前のログバージョン（変更前）の受信ログと新ログバージョン（変更後）の受信ログを一括して管理することができません。

「ログバージョン変更時の動作」で「古いバージョンのログを削除する」に設定した場合、削除された受信ログは復元できません。



ワンポイント

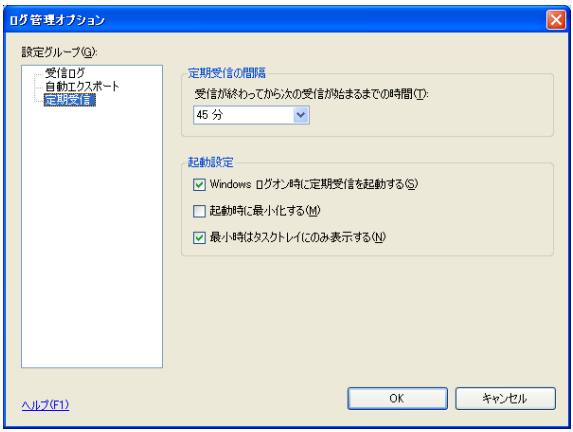
自動エクスポートされるファイル名は次のようになります。

LOG- ログの種類を示す文字 - 最初のレコードの日時 - 最後のレコードの日時

たとえば、監査ログ 「2004 年 11 月 5 日 13 時 00 分 24 秒 ～ 2005 年 2 月 25 日 4 時 39 分 12 秒」までをエクスポートする場合は、「LOG-AUD-2004-11-05-130024-2005-02-25-043912.lmu」になります。

監査ログで「AUD」の部分が通信（スキャン）ログの場合は「SCAN」、通信（ファクス）ログの場合は「FAX」になります。

定期受信：



設定項目	説明
定期受信の間隔	Log Management Utility 起動中に定期的にログを受信します。受信する間隔も指定できます。
Windows ログオン時に 定期受信を起動する	Windows ログオン時に Log Management Utility を起動します。
起動時に最小化する	Log Management Utility を最小化した状態で起動します。
最小時はタスクトレイにのみ表示する	Log Management Utility 最小化時に、タスクトレイにのみ表示します。

ご注意
定期的にログを受信する機能は「オートプロテクト機能」と同時に設定できません。

ワンポイント
定期受信を設定していても、ログ受信指定装置として設定されていない装置からはログを受信しません。ログ受信指定装置にする設定については、p. 4-1 をごらんください。

6 エラーメッセージ一覧

Log Management Utility を操作中に、エラーメッセージが表示されることがあります。

エラーの内容をあらわすメッセージのあとに、エラーコード番号が表示されます。



エラーコード番号とその対処方法は以下のとおりです。対処方法にしたがって操作してください。

エラーコード	説明
22 ,23, 101, 102, 201, 221, 245, 9110	ユーティリティーを再インストールしてください。
28	管理者権限で実行してください。
9024, 9109	メモリーエラーが発生しました。
9002, 9017, 9018, 9021, 9028-9030, 9032, 9035-9039, 9043, 9103, 9105, 9106	通信エラーが発生しました。
220, 287, 9003, 9102, 9107, 9108	この装置には対応していません。
286, 9006, 9008, 9013, 9015, 9044	装置の設定を変更して再試行してください。
9007	装置がセキュリティープロテクト状態です。
303, 306, 3200, 4000-4010, 9004, 9011, 9014	設定を変更して再試行してください。
9005, 9012	しばらく経ってから再試行してください。
20, 21, 24-27, 30-99, 222-244, 246-267, 270-274, 277-283, 285, 288-302, 304, 307-317, 400-413, 450-470, 472, 500, 700-716, 3100, 3101, 3110, 4011, 9000, 9001, 9010, 9019, 9020, 9100, 9101, 40039, 40041	再試行してください。
9009, 9016, 9022, 9023, 9025-9027, 9031, 9033, 9034, 9040-9042, 9104	管理者へ問い合わせてください。
29, 268, 269, 275, 284	ユーティリティーを再起動してください。
305, 471	対応していないログファイルです。
1	ユーザーにより処理がキャンセルされました。

2023. 9 © 2007 KONICA MINOLTA, INC.